心の絆「市民後見」フォーラム開催決定！

人生 100 年といわれる時代、後見制度の紹介、後見活動や生活支援の事例紹介から、 高齢期の生活を誰の世話になるのか、誰に託したいかを一緒に考えましょう。

2020 年 2 月 15 日（土）10 ～ 15 時　まちづくり市民交流プラザ（中区袋町）

午前の部：映画「介護講談」上映、ガンバルーン体操
午後の部：フォーラム（コーディネーター 春日キスヨ氏、登壇者
　　京都・市民後見 NPO ユニバーサルケア内藤健三郎氏など）
参 加 費：午前のみ３００円、午後は無料

安佐北

○みのりミニギャラリー　『カッティングシートアート作品展』
10月1日～10月31日

会員のご親族である箕越さんの作品展で、みんなで展示方法を数回、話し合って準備し、展示して下さいました。
また、箕越さんは壁掛けのみのり看板を作成して寄付してくださいました。

○みのり講座『いきいき大腸の話』　10月8日（火）13時30分～

ヤクルトが全国的に展開されている出前授業です。島田管理栄養士が来られ「大腸を整えて健康体に！」というテーマで腸内環境を整える話を聴き、日頃の疑問など気軽に質問できる講座でした。

「知ってトクする　医療・介護・税金の負担軽減対策　勉強会」
２０１９年9月１４日

介護支援専門員の山岡学さんを講師に迎えて勉強会を開催しました。三連休の初日にもかかわらず、12 名の参加者がありました。
参加者の方もよく勉強されていて、かなり突っ込んだ質問もありました。両親の介護を抱えている参加者からは、今後税金対策するうえで参加してよかったとの意見がありました。

【発行責任者】　特定非営利活動法人
心の絆ネットワーク
理事長　塚　永 行

〒730-0013　広島市中区八丁堀 6-11　グレイスビル 2F
TEL 082-221-8606・FAX 082-224-5032
http://cocoronokizuna.sakura.ne.jp/

心の絆　冬のおたより

2019 年 12 月発行
（第 10 号）

cocoronokizunacocoronokizunacocoronokizunacocoronokizunacocoronokizunacocoronokizunacocoronokizunacocoronokizunacocoronokizuna

この一年間は会員の皆様と少し疎遠になっているところもありますが、引き続きご支援していただき、発展の絆をつくっていきたいと思います。今年もありがとうございました。

理事長　塚　永 行

NPO 法人心の絆ネットワーク（以下本法人）を 2011 年 9 月に創設し、最初に取り組んだ事業が市民後見人（候補者）養成講座である。第 1 期は 2013 年 4 月、26 名の受講者を迎え、全行程 10 日間で 7 月の修了者は 22 名でスタートし、今年 10 月第 10 期の養成講座が終了。その修了式でこれまでの修了者人数が 150 人に達したことを知った。

皆さんはこの 150 人という人数をどう思われるだろうか。10 期で 150 人？各期平均 15 人は少ないなあという声が聞こえてきそうだ。広島市や近隣自治体等が開催する市民後見人養成講座でもなかなか人が集まらないという声を聞く。

しかし、私には本法人が数年かけて「修了者 150 人」に達したことは、まさか、まさかの驚きであり感動すら覚える人数に思えた。なぜ私が「150 人」を凄い！と思ったのか、その思いを伝え法人や修了者個々人のこれからの活動の「元気づけ」が出来ればと思う。

「150 人」のことを考えていると、第 1 期から講師陣の一人として関わってきた私の脳裏に一人ひとりの受講者の顔が浮かんでくる。その顔は本法人の活動イメージ（＝絆づくりのネットワーク）へとつながり、その一人ひとりがサービス利用者や多様な職種の専門職と出会いの線でつながり、やがてそれぞれの場で活動の広がりの面を創り出していく。

そう！私は「修了者 150 人」から、まさに 150 通りの地域貢献活動の創生をイメージして心震える衝撃を受けたのである。なんとまあ、手前味噌の現実離れした夢、絵空事を！と笑われるかも知れない。

確かに本法人のような非営利活動団体の運営は、決して楽ではない！本法人もご多分に洩れず収入源は会費や寄付で事業収益はなかなか期待できず、手弁当、持ち出しが続き、正規職員の雇用等ほど遠い世界である。私自身もそのことは承知で役員を引き受けた経緯があった。ただただ、これからの少子超高齢社会、身近に頼る家族等がいないファミレス社会において市民後見人という人材の必要性を思い、何とかしなければ！と、本法人の設立趣旨に賛同しての参加でここまできた。

当初は修了者が市民後見人候補者として登録しても、法人（市民後見人）による後見支援の実践活動は 1 件もなく利用者を「待つ」状態が続いた。そうした中で、安佐北や廿日市エリアの修了者（登録会員）による地域活動への取り組みが生まれた。その活動は現在も継続し、勉強会やサロンが開かれている。この活動が本法人のもう一つの活動イメージ（＝絆づくりのネットワーク）を創出した。まさに修了者によるそれぞれの地域を活動拠点にした支援力の創生モデルである。

さらに生活支援サポーターの養成も本法人の事業に加わり、㈱みのりとの協働で雇用を創出し後見活動の身上監護面の支援力になってきている。

そして今、修了者（会員登録）と専門職による後見活動も始まった。「小さな一歩が、150 人の歩みへつながり、孤立した人を出さないような支援活動に拡がること」―夢にさせないように、今は地道にそれぞれの活動を継続すること！そこにはきっと大きな信頼が育つはず、そう思って自分を奮い立たせている。

理事　薬真寺満里子